

2025年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 日本思想史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

成

績

2025年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 (日本思想史 専攻分野)

一、今後研究しようとするテーマの思想史学上の研究意義について論じなさい (20行程度)。

二、次の①～④について簡潔に説明しなさい (各3～4行程度)。

① 職分論 ② 近代の超克 ③ 室鳩巢 ④ 『海国図志』

三、次の史料を読んで、以下の問いに答えなさい。

人間果して生命を持てる者なりや、生命といふは、この五十年の人生を指して言ふにあらざるなり、謂ふ所の生命の泉源なるものは、果して吾人々類の享有する者なりや。この疑問は人の常に思ひ至るところにして、而して人の常に軽んずる所なり、五十年の事を経綸するは、到底五十年の事を経綸せざるに若かざるなり、明日あるを知らずして今日の事を計るは、到底真に今日の事を計るものにあらざるなり、五十年の人生の為に五十年の計を為すは、如何に其計の大に、密に、妙に、精にあるとも、到底其計なきに若かざるなり。二十五年を労作に費し、他の二十五年を逸楽に費やすとせば、極めて面白き方寸なるべし、人間の多数は斯の如き夢を見て、消光するなり、然れども實際世界は決して斯の如き夢想を容るゝの余地を備へず。我が心われに告ぐるに、五十年の人生の外はすべて夢なりといふを以てせば、我は寧ろ勤勞を廢し、事業を廢し、逸樂晏眠を以て残生を送るべきのみ。

吾人は人間に生命ある事を信ずる者なり。今日の思想界は仏教思想と耶教思想との間に於ける競争なりと云ふより、寧ろ生命思想と不生命思想との戦争なりと云ふを可とす。吾人が思想界に向つて微力を献げんと欲することは、耶蘇教の用語を以て仏教の用語を奪はんとするにあらず、耶蘇教の文明 (外部の) を以て仏教の文明を仆せんとするにあらず、耶蘇教の智識を以て仏教の智識を破らんとするにあらず、吾人は生命思想を以て不生命思想を滅せんとするものなり、彼の用語の如き、彼の文明の如き、彼の学芸の如き、是等外部の物は、自然の淘汰を以て自然の進化を経べきなり、吾人の関する所愛にあらず、生命と不生命、之れ即ち東西思想の大衝突なり。

(中略)

夫れヒューマニチー (人性、人情) とは、人間の特有性の義なり。詩人哲学者は無論ヒューマニチーの観察者ならずんばあらず、然れども吾人は恐る、民友子の「観察論」の読者には、或は詩人哲学者を以て単に人性人情の観察者なりと、誤解する者あらんことを。民友子の「観察論」

を読みたる人は必らず又た民友子の「インスピレーション」を読まざるべからず。然らずんば吾人民友子に対する誤解の生ぜんことを危ぶむなり。詩人哲学者は到底人間の内部の生命を解釈するものたるに外ならざるなり、而して人間の内部の生命なるものは、吾人之れを如何に考ふるとも、人間の自造的のものならざることを信ぜずんばあらざるなり、人間のヒューマニチー即ち人性人情なるものが、他の動物の固有性と異なる所以の源は、即ち愛に存するものなるを信ぜずんばあらざるなり。生命！此語の中にいかばかり深奥なる意味を含むよ。宗教の泉源は愛にあり、之なくして教あるはなし、之なくして道あるはなし。之なくして法あるはなし。真理！世上所謂真理なるもの、果して何事をか意味する。ソクラテスも靈魂不朽を説かざれば、一個の功利論家を出る能はざるなり、孔子も道は邇きにありと説かざれば、一個の藪医者たるに過ぎざりしなり。道は邇きにありと言ひたるもの、即ち、人間の秘奥の心宮を認めたるものなり。靈魂不朽を説きたるもの、即ち生命の泉源は人間の自造的にあらざるを認めたるものなり。内部の生命あらずして、天下豈、人性人情なる者あらんや。インスピレーションを信ずるものにあらずして、真

正の人性人情を知るものあらんや。五十年の人生を以て人性人情を解釈すべき唯一の舞台とする論者の誤謬は、多言を須ひずして明白なるべし。(北村透谷「内部生命論」)

(1) 「五十年の事を経綸するは、到底五十年の事を経綸せざるに若かざるなり」とは、どういう意味か、また著者の北村透谷がそのように考える理由を説明しなさい(5行程度)。

(2) 著者の北村透谷は「人間の内部の生命」をどのようなものと考えているか。史料全体をふまえ、また「民友子」の説とも対比しながら説明しなさい(15行程度)。

受験記号番号

$$\frac{3}{6}$$

受験記号番号

$$\frac{4}{6}$$

受験記号番号

5/6

受験記号番号

$$\frac{6}{6}$$